

第2章 これまでの文化財調査と文化財の概要・特徴

1. これまでの文化財調査

本市に所在する文化財については、以下で取り上げるような国や静岡県、民間団体および市などによる調査や、その成果をまとめた発行物に基づいて、令和4年3月現在で、43,318件が明らかとなっています。

(1) 国による調査

『無形の民俗文化財記録第34集 盆行事II 静岡県』（文化庁文化財保護部・平成3年）では、昭和52(1977)年に「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された「盆行事」について、昭和63(1988)年に調査が実施され、県内の事例が所収されています。この中では、駿河（富士川流域）の盆行事として富士市水神、天間、坂下、木島、室野、足ヶ久保、大北の7か所が取り上げられています。

また、『近代の庭園・公園等に関する調査報告書』（文化庁文化財部記念物課・平成24年）では、近代の庭園・公園等の情報収集をはじめ、文化財として適切な保護を図るために必要な検討を行うことを目的に全国的な所在調査が実施され、詳細調査の対象とすべきもの及び何らかの保護措置を検討すべきものが一覧表にまとめられています。この一覧表には、古谿荘庭園が掲載されており、重要事例に位置づけられています。

さらに、『名勝に関する総合調査—全国的な調査（所在調査）の結果—報告書』（文化庁文化財部記念物課・平成25年）では、全国に所在する未指定・未登録の自然的な風致景観又は近代以前の歴史的庭園等を適切に保護するために、それらの情報を網羅的に集約することを目的として、名勝地一覧表がまとめられています。この一覧表には、富士川が掲載されており、重要事例に位置づけられています。

また、『農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告書』（文化庁文化財部記念物課・平成15年）では畑地景観の中で富士山南麓の茶畑が記載されています。

(2) 静岡県による調査

静岡県では、昭和36(1961)年から令和2(2020)年に至るまで、様々な分野の文化財に関する調査を実施し、69号に及ぶ調査報告書を発行してきました。これらの調査報告書のうち、本市に関連する調査成果は、以下のものが挙げられます。

①	第1号『静岡県遺跡地名表』（昭和36年）および第2号『静岡県の古代文化』（昭和38年） →現在の本市を構成する旧吉原市・旧富士市・旧鷹岡町・旧富士川町の遺跡として、417件がリストアップされている。
②	第6号『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』（昭和40年） →東海道新幹線の開発にともなう発掘調査の報告書。本市内では4件の発掘調査が報告されている。
③	第7号『静岡県民俗資料緊急調査報告書』（昭和41年） →浮島三丁目(船津)および大淵の2集落における民俗に関する聞き取り調査の報告。

	第 17 号『静岡県民俗地図』（昭和 53 年）
④	→静岡県の各地における民俗事例の呼称に関する調査。本市内では鵜無ケ淵、岩本、今井、木島室野の 4 集落を対象に、55 件の民俗事例に対する呼称調査が実施されている。
	第 19 号『静岡県の近世社寺建築』（昭和 54 年）
⑤	→静岡県の近世社寺建築に関する調査。本市内では實相寺庫裡および富知六所浅間神社本殿の 2 件が調査対象となっている。
	第 20 号『静岡県歴史の道調査報告書 東海道』（昭和 55 年）
⑥	→静岡県内の東海道に関する調査。本市内では、柏原から岩淵に至るまで、60 件におよぶ史跡や石造文化財が挙げられている。
	第 21・22 号『静岡県歴史の道調査報告書 身延道』（昭和 55 年）
⑦	→静岡県から山梨県の身延山に至る巡礼路である身延道に関する調査。本市内では、岩淵から北松野に至るまで、45 件におよぶ史跡や石造文化財が挙げられている。
	第 23 号『静岡県の中世城館跡』（昭和 56 年）
⑧	→静岡県内の中世城館跡に関する調査。本市内では 13 件の城跡が挙げられている。
	第 34 号『静岡県の民謡』（昭和 61 年）
⑨	→静岡県内に伝わってきた民謡に関する調査。本市内では、10 か所の伝承地から 45 曲の民謡が採集されている。
	第 41 号『静岡県の諸職』（平成元年）
⑩	→静岡県内の職人とその技術に関する調査。本市内では 3 人の職人（木地師・籠屋・紙漉き）が取り上げられている。
	第 50 号『静岡県の民俗芸能』（平成 9 年）
⑪	→静岡県内に伝来する民俗芸能に関する調査。本市内では鵜無ケ淵神明宮の御神楽、岩淵祇園囃子の 2 件が取り上げられている。
	第 54 号『静岡県の祭り・行事』（平成 12 年）
⑫	→静岡県内で実施されている祭りや行事に関する調査。本市内では、38 件の祭りや行事が取り上げられている。
	第 55 号『静岡県の近代化遺産』（平成 12 年）
⑬	→静岡県内の近代化遺産（明治以降の近代化に貢献した建造物等）に関する調査。本市内では 20 件の近代化遺産が挙げられている。
	第 56 号『静岡県の前方後円墳』（平成 13 年）
⑭	→静岡県内の前方後円墳を対象とした調査。本市内では、8 件の古墳に対する報告が掲載されている。
	第 57 号『静岡県の近代和風建築』（平成 14 年）
⑮	→静岡県内に所在する幕末から大正期にかけての和風建築に関する調査。本市内では 16 件の建造物が挙げられている。
	第 58 号『静岡県の古代寺院・官衙遺跡』（平成 15 年）
⑯	→静岡県内の古代寺院や官衙の遺跡を対象とした調査。本市内では、東平遺跡および三日市廃寺跡の 2 か所の報告が掲載されている。
	第 69 号『静岡県の中近世墓』（平成 31 年）
⑰	→静岡県内の中世および近世の墓所・墓石に関する調査。本市内では、10 件の墓所・墓石が調査対象となっている。

このように、静岡県による調査では、17 の報告書において、269 件（静岡県遺跡地名除く）の文化財が取り上げられています。

(3) 静岡県等による埋蔵文化財調査

「富士市埋蔵文化財分布地図」に示されている埋蔵文化財包蔵地のうち、国や静岡県が主体となる開発行為が行われる場合には、それに先立ち静岡県が出資する財団法人であった静岡県埋蔵文化財調査研究所（平成23年3月閉所）や、同所の業務を継承した静岡県埋蔵文化財センターによる発掘調査が実施されてきました。調査成果については、調査報告書が刊行されており、本市に関わるものは以下のとおりです。

①	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書 第123集『富士川SA関連遺跡』（平成13年）
②	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第200集『矢川上C遺跡（第二東名No.39-II地点）』（平成21年）
③	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第228集『天ヶ沢東遺跡 古木戸A遺跡 古木戸B遺跡（第二東名No.44地点）』（平成22年）
④	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第230集『富士山・愛鷹山麓の遺跡』（平成22年）
⑤	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第231集『富士山・愛鷹山麓の古墳群』（平成22年）
⑥	静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第24集『中桁・中ノ坪遺跡』（平成25年）
⑦	静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第37集『富士岡1古墳群他』（平成25年）
⑧	静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第59集『富士市指定史跡 雁堤』（令和2年）

(4) 地域史の刊行

本市では、市の歴史や文化に関連した図書が多数発行されています。それらの発行主体を大きく分けると、行政が主体となって発行したものと、民間団体や個人が主体となって発行したものの2つに分けることができます。

① 行政発行の地域史

行政が主体となって発行した地域史としては、74種にのぼります。このうち、明治時代から昭和初期にかけては、当時の村・町といった単位（現在の小学校区とほぼ重なる）で、それぞれの自治体の沿革誌・村誌といった地域史が編纂されています。これらの図書は、当時の各村の地理や歴史、史跡や名勝の状況を知ることができる貴重な素材であるといえます。

昭和20(1945)年代には、現在の富士市を構成している旧自治体（吉原市・富士市・鷹岡町・富士川町等）のそれぞれで地域史が編纂されていくこととなります。その結果、旧松野村の『松野村郷土誌』（昭和28年）、旧富士川町の『富士川町史』（昭和37年）などが発行されたものの、旧自治体の中でも規模の大きかった旧吉原市・旧富士市・旧鷹岡町では、昭和41(1966)年の2市1町の合併までにそれぞれの自治体の地域史を刊行できず、合併後の昭和40(1965)年代から昭和50(1975)年代にかけて、旧自治体それぞれの地域史（『富士市史』、『吉原市史』、『鷹岡町史』）が刊行されています。それとともに、旧富士川町では、平成20(2008)年に富士市と合併するまで、昭和37(1962)年の『富士川町史』発行以降の町の歴史を編纂し

た追補（1号～5号）を発行しているほか、旧富士川町の文化財をとりあげた『ふるさと富士川』が刊行されています。

一方、『富士市史』、『吉原市史』、『鷹岡町史』を刊行した本市では、昭和41(1966)年の2市1町の合併以降、20年間の行政史をまとめた『富士市20年史』（昭和61年）、昭和61(1986)年以降30年間の行政史をまとめた『富士市史通史編（行政）』・『富士市史資料編（行政）』や、『富士市消防史』、『過去に学ぶ 富士の災害史』といった、個別のテーマに基づく地域史が発行されています。

②民間団体や個人発行の地域史

富士市における明治時代から昭和初期にかけての地域史は、行政が主体となって発行したものが中心でしたが、昭和20(1945)年代には、行政だけではなく、民間団体や個人による地域史の発行が見られるようになりました。令和2(2020)年12月現在で確認できた民間団体や個人による地域史は120種にのぼります。

なかでも、令和元(2019)年に創立50周年を迎えた駿河郷土史研究会をはじめとする地域の歴史を調査・研究する有志のグループによる熱心な活動と、その活動成果としての地域史の発行が、文化財の把握や保存に深く貢献している点が指摘できます。たとえば、駿河郷土史研究会では、市内の神社や仏教寺院についての調査を実施しており、神社については、市内全域をほぼカバーする形で、193社の祭神や創建時期、社殿構造、境内配置、棟札等が詳細に調査されています。一方、寺院については、同会により、市内全域をほぼカバーする形で、96寺の創建や開山、開基、本尊や鎮守堂などが調査されています。

また、昭和50(1975)年以降からは、市内の小中学校区を基本とする各地区において、まちづくり活動の一環として、地域史の発行が盛んにおこなわれています。こうして発行された地域史の多くは、それぞれの地域の各世帯に無償で配布されることが多く、地域の人々が、自らが住む地域の歴史や文化を認識する一助となっています。

(5)市が主体となり実施した文化財調査

①有形文化財（建造物等）

本市ではこれまでに以下の建造物の調査を実施し、報告書を発行しています。

『樋代官長屋門・原泉舎移築復元 富士市立歴史民俗資料館竣工記念』（昭和56年）
樋代官長屋門（市指定有形文化財）・原泉舎（市指定有形文化財）
『富士市立歴史民俗資料館 旧松永家住宅移築復元概要』（昭和57年）
旧松永家住宅（市指定有形文化財）
『富士市立歴史民俗資料館 眺峰館移築復元概要』（昭和59年）
眺峰館（市指定有形文化財）

『富士市立歴史民俗資料館 杉浦医院建物移築復原概要』（平成2年）
杉浦医院（市指定有形文化財）
『富士市立歴史民俗資料館 樋代官植松家住宅 旧独楽荘石倉 移築復原竣工概要』（平成3年）
樋代官植松家住宅（市指定有形文化財）・旧独楽荘石倉
『福壽山瑞林寺－瑞林寺伽藍現況調査報告書』（平成4年）
瑞林寺山門・鐘楼・本堂（市指定有形文化財）
『国有形登録文化財「常盤家住宅主屋」修理報告書』（平成17年）
常盤家住宅主屋（国登録有形文化財）
『富士市指定有形文化財 稲垣家住宅移築保存工事報告書』（平成21年）
稲垣家住宅（静岡県指定有形文化財）
『六所家総合調査報告書 建造物・庭園』（平成26年）
六所家主屋（調査後解体）、土蔵・門塀（国登録有形文化財）
『富士市指定有形文化財 稲葉家住宅耐震修理報告書』（平成31年）
稲葉家住宅（市指定有形文化財）
『富士市の近代産業遺産調査報告書』（令和元年）
王子エフテックス株式会社第一製造所（3棟）、王子エフテックス株式会社東海工場（5棟）、岩科機械製作所（2棟）、株式会社ふじかわコーポレーション（2棟）、増田衣料工業株式会社（4棟）

さらに、石造文化財に関しては、本市では、昭和59(1984)年から平成5(1993)年にかけて、市内全域の石造文化財の調査を実施し、以下の報告書が刊行されています。

報告書名	刊行年
富士市の石造文化財（第1集）鷹岡・田子浦・岩松・加島地区調査概要	昭和60年
富士市の石造文化財（第2集）大淵・伝法・吉原地区調査概要	昭和61年 平成5年補訂
富士市の石造文化財（第3集）今泉・原田・吉永地区調査概要	昭和62年
富士市の石造文化財（第4集）須津・浮島・元吉原地区調査概要	昭和63年 平成5年補訂
富士市の石造文化財（第5集）石造文化財補足調査概要	平成元年

また、旧富士川町では平成6(1994)年から平成10(1998)年にかけて町内全域の石造文化財の調査を実施し、『富士川町文化財報告書第22号 富士川町の石造文化財』（平成10年）を発行しています。

これらの調査の結果、本市内では、48種4,449件の石造文化財の情報（所在地・形状・造立年・大きさ・銘文等）がリスト化されています。

②有形文化財（絵画・工芸品）

有形文化財のうち、絵画・工芸品については、市が購入したものに加え、市民から寄贈を受けた2,308件が富士市立博物館（富士山かぐや姫ミュージアム）へと収蔵され、データベース化されていますが、市域全体を対象とした総合的な把握調査は未実施です。

③有形文化財（書跡・典籍、古文書）

本市に残る、あるいは本市に関連する書跡・典籍、古文書については、これまでに113件（39,720点）の史料調査を行い、目録を発行しました。こうした目録の発行により、本市の近世・近代史の解明に対しての一応の基礎が整ったものと考えられます。

また、これらの一部を富士市立博物館（富士山かぐや姫ミュージアム）および富士市立中央図書館が収蔵しています。

④有形文化財（考古資料）および、遺跡・埋蔵文化財

「富士市埋蔵文化財分布地図」に示されている260件の埋蔵文化財包蔵地（令和3年10月現在）のうち、民間開発や市の公共事業等の開発が実施される場合は、本市により試掘確認調査や本発掘調査が行われています。本市によるこれまでの本発掘調査は228件のほり、95冊の調査報告書が発行されています。この包蔵地については、計画的な踏査・試掘等により把握に努めており、その成果をもとに随時更新をおこなっています。

また、発掘調査に伴い発見された遺物7,252件に関しては、富士市埋蔵文化財調査室での整理作業と報告書の刊行が終了した後に、富士市立博物館（富士山かぐや姫ミュージアム）に移管され、展示や調査研究に活用されています。

⑤民俗文化財（有形の民俗文化財）

有形の民俗文化財に関しては、主として市民から寄贈を受けた民具類16,474点および製紙関係の資料2,356点を富士市立博物館（富士山かぐや姫ミュージアム）が収蔵し、データベース化しています。

⑥民俗文化財（無形の民俗文化財）

本市では、無形の民俗文化財のうち祭礼を対象に、昭和61(1986)年度、昭和62(1987)年度の2か年で市内の祭礼分布調査を実施し、昭和63(1988)年に『富士市内祭礼分布調査報告書 富士市のまつり』を発行しています。この調査では、市内全域（富士川地区除く）で441件の祭礼がリストアップされ、各地域において、当時は祭礼が非常に身近な存在であったことがうかがえます。

また、旧富士川町では、昭和 58(1983)年度に祭礼および年中行事についての調査を実施し、昭和 59(1984)年に『ふるさと富士川第3集 祭りと年中行事』が発行されています。この調査では、19件の祭礼と90件の年中行事が取り上げられているほか、庚申講や岩淵鳥居講といった講行事についても挙げられています。

⑦ 記念物（天然記念物）

本市の天然記念物については、『富士市の自然 富士市域自然調査報告書』（昭和 61年）において、地質・地形、植物、動物などの分野から富士山についての調査成果が報告されています。

⑧ その他

● 史話と伝承

本市に伝わる史話や伝承に関しては、昭和 56(1981)年に発行された『ふるさと富士川 第二集 昔ばなし・伝説集』、平成元(1988)年に発行された『ふるさとの昔話』および、平成 14(2002)年に発行された『ふるさとの昔話II』に 203 件が取り上げられています。

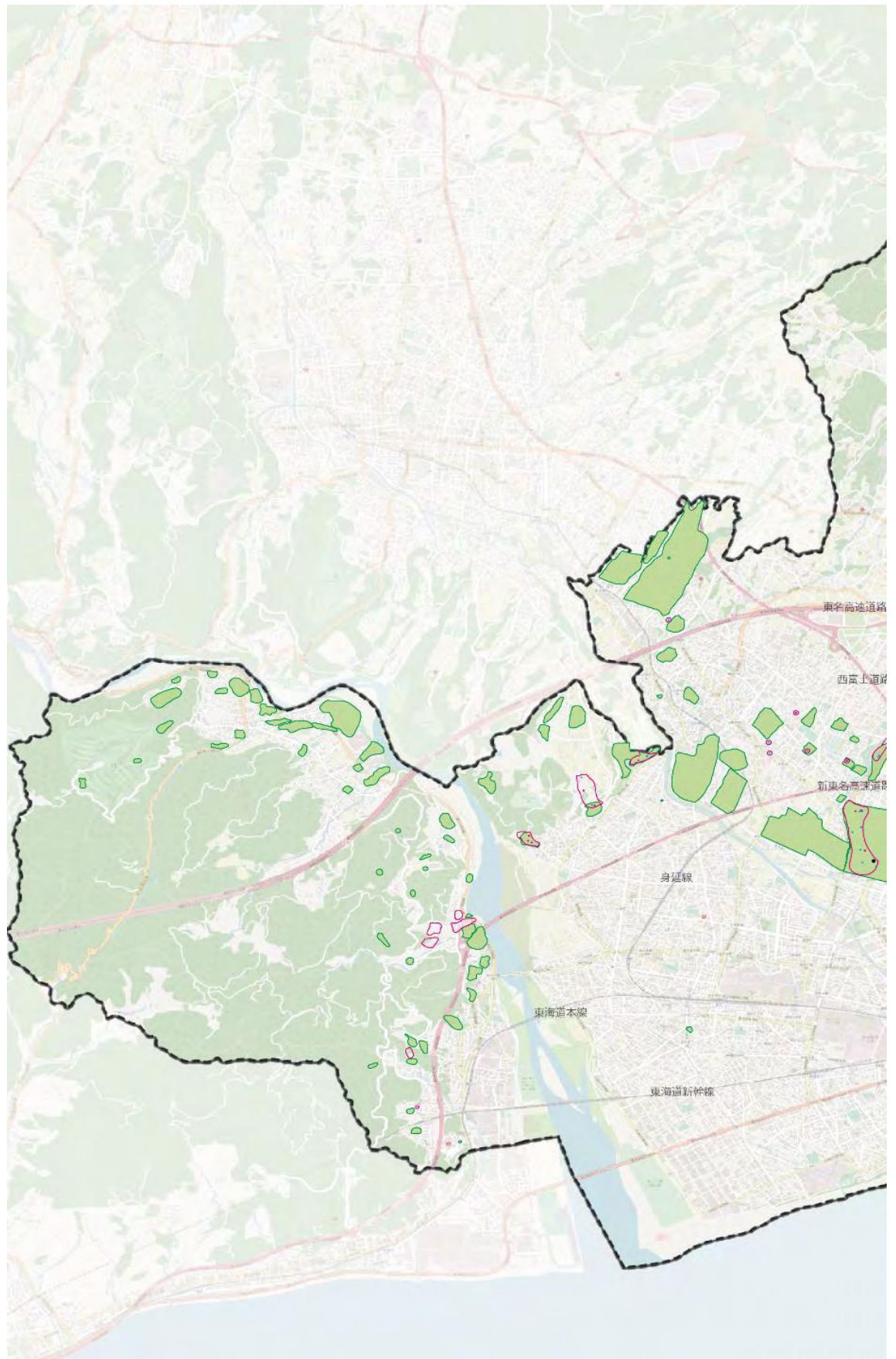
● 偉人・先人に関わるもの

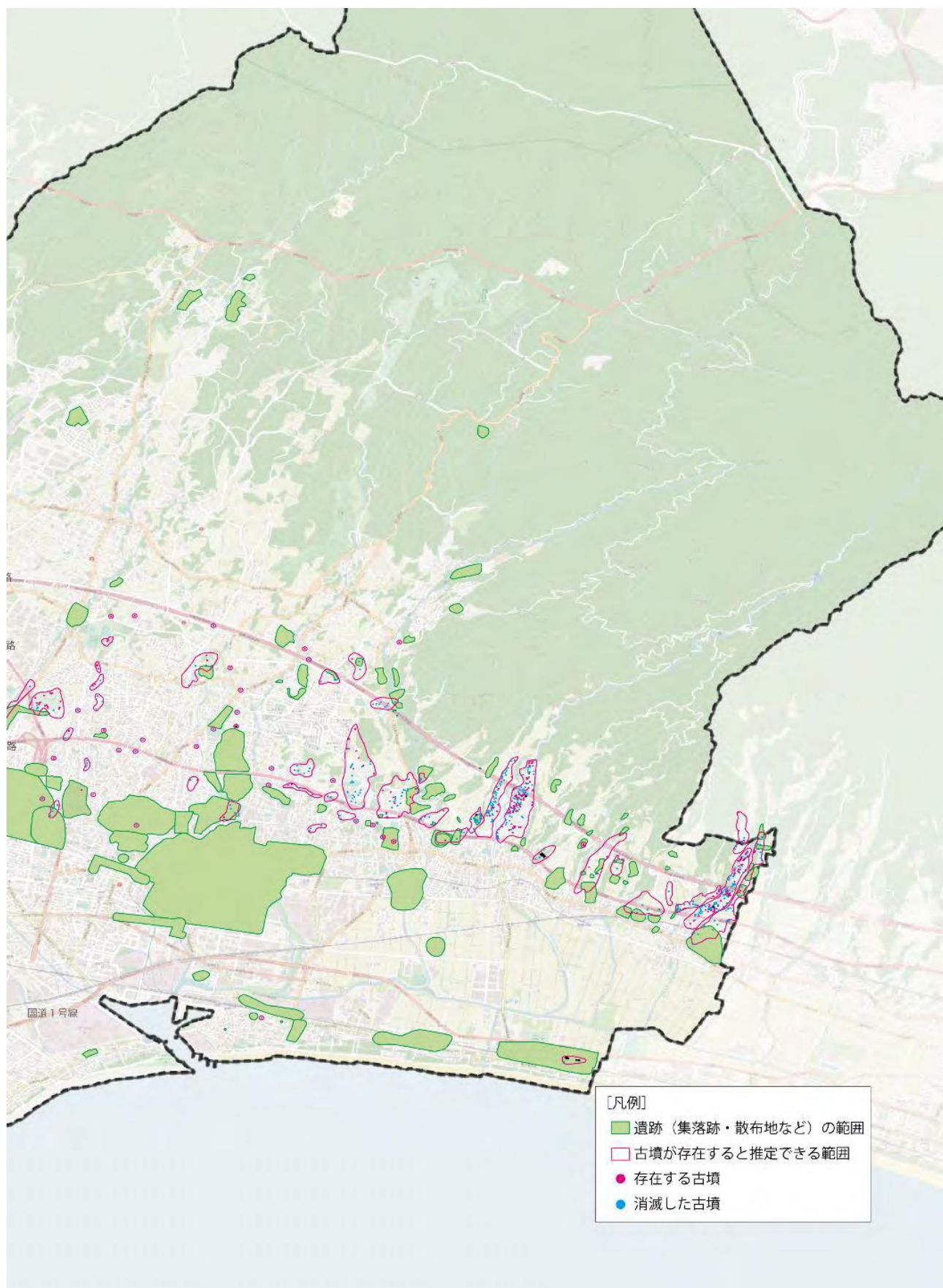
本市では、郷土の発展に貢献した先人（偉人）の足跡や業績についての調査を実施し、平成 2(1990)年に『郷土の先達 第一輯』、平成 9(1997)年に『郷土の先達 第二輯』（いずれも富士市立中央図書館発行）を発行しています。これらの図書には、主として江戸時代から昭和にかけての偉人 69 人の事績がまとめられており、その事績を追うことで、本市の発展の様相を辿っていくことができます。

● 戦争遺跡

本市では、令和 2(2020)年 11 月に、核兵器廃絶平和都市宣言 35 周年を記念して、市内に点在する 10 件の戦争関係の建造物や痕跡などを「戦争遺跡等」として取りまとめ、「戦争の歴史をたどる MAP」を発行しています。また、民間団体である核兵器廃絶平和富士市民の会では、昭和 63(1988)年から「平和のための富士戦争展」を毎年実施し、戦争遺跡等を広く市民に紹介しています。

[埋蔵文化財包蔵地図] (令和4年3月現在)





[これまでの調査に基づく文化財の把握件数]

	種類	調査主体	対象	把握件数	備考
有形文化財	建造物	県	近世社寺建築	2	『静岡県文化財調査報告書』
		県	近代化遺産	20	『静岡県文化財調査報告書』
		県	近代和風建築	16	『静岡県文化財調査報告書』
		市	建造物	31	建造物に関する報告書
		民間団体	神社建築	193	『富士市の神社』
		民間団体	寺院建築	96	『富士市の仏教寺院』
		市	石造文化財	6,805	『富士市の石造文化財』
	絵画・工芸品	市	美術工芸	2,308	博物館資料データベースによる
	書跡・典籍・古文書	市	書跡・典籍・古文書	113	目録作成済みのみ (39,720 点)
	考古資料	市	考古資料	7,252	博物館資料データベースによる
民俗文化財	有形の民俗文化財	県	民俗資料	2	『静岡県文化財調査報告書』
		市	民俗資料	16,474	博物館資料データベースによる
		市	製紙関係	2,356	博物館資料データベースによる
	無形の民俗文化財	国	盆行事	7	『無形の民俗文化財 記録』
		県	民俗事例の呼称	55	『静岡県文化財調査報告書』
		県	民謡	45	『静岡県文化財調査報告書』
		県	職人	3	『静岡県文化財調査報告書』
		県	民俗芸能	2	『静岡県文化財調査報告書』
		県	祭り・行事	38	『静岡県文化財調査報告書』
		市	祭り	550	『富士市のまつり』『祭りと年中行事』
記念物	遺跡	県	遺跡	417	『静岡県文化財調査報告書』
		県	歴史の道	2	『静岡県文化財調査報告書』
		県	中世城館	13	『静岡県文化財調査報告書』
		県	前方後円墳	8	『静岡県文化財調査報告書』
		県	古代寺院・官衙	2	『静岡県文化財調査報告書』
		県	中近世墓	10	『静岡県文化財調査報告書』
		県	発掘調査	26	『静岡県文化財調査報告書』
		市	埋蔵文化財包蔵地	260	「富士市埋蔵文化財分布地図」
	名勝地	国	庭園	1	『近代の庭園・公園に関する調査研究報告書』
		国	名勝	1	『名勝に関する総合調査—全国的な調査（所在調査）の結果—報告書』
	動物・植物・地質鉱物	市	植物	2,656	『富士市の自然』ほか
		市	動物	3,272	『富士市の自然』ほか
	その他	市	史話と伝承	203	『ふるさとの昔話』
市		偉人・先人に関わるもの	69	『郷土の先達 第一輯』、『郷土の先達 第二輯』	
民間団体		戦争遺跡	10	「戦争の歴史をたどる MAP」	
総把握件数				43,318	※重複あり

2. 富士市の文化財の概要と特徴

(1) 指定等文化財の件数

前節でとりあげたような各種調査の結果も反映しながら、国では文化財保護法、静岡県では静岡県文化財保護条例、本市では富士市文化財保護条例に基づいて、それぞれ国にとって、静岡県にとって、本市にとって重要な文化財が指定等されています。

本市には、令和4(2022)年3月現在、83件の指定文化財があり、そのうち、国による指定が8件、県による指定が11件、市による指定が64件となっています。これらを種別で見ると、有形文化財の建造物が12件、有形文化財の美術工芸品が22件、民俗文化財が5件、記念物の遺跡(史跡)が16件、記念物の名勝地が1件、記念物の動物・植物・地質鉱物が27件となっています。

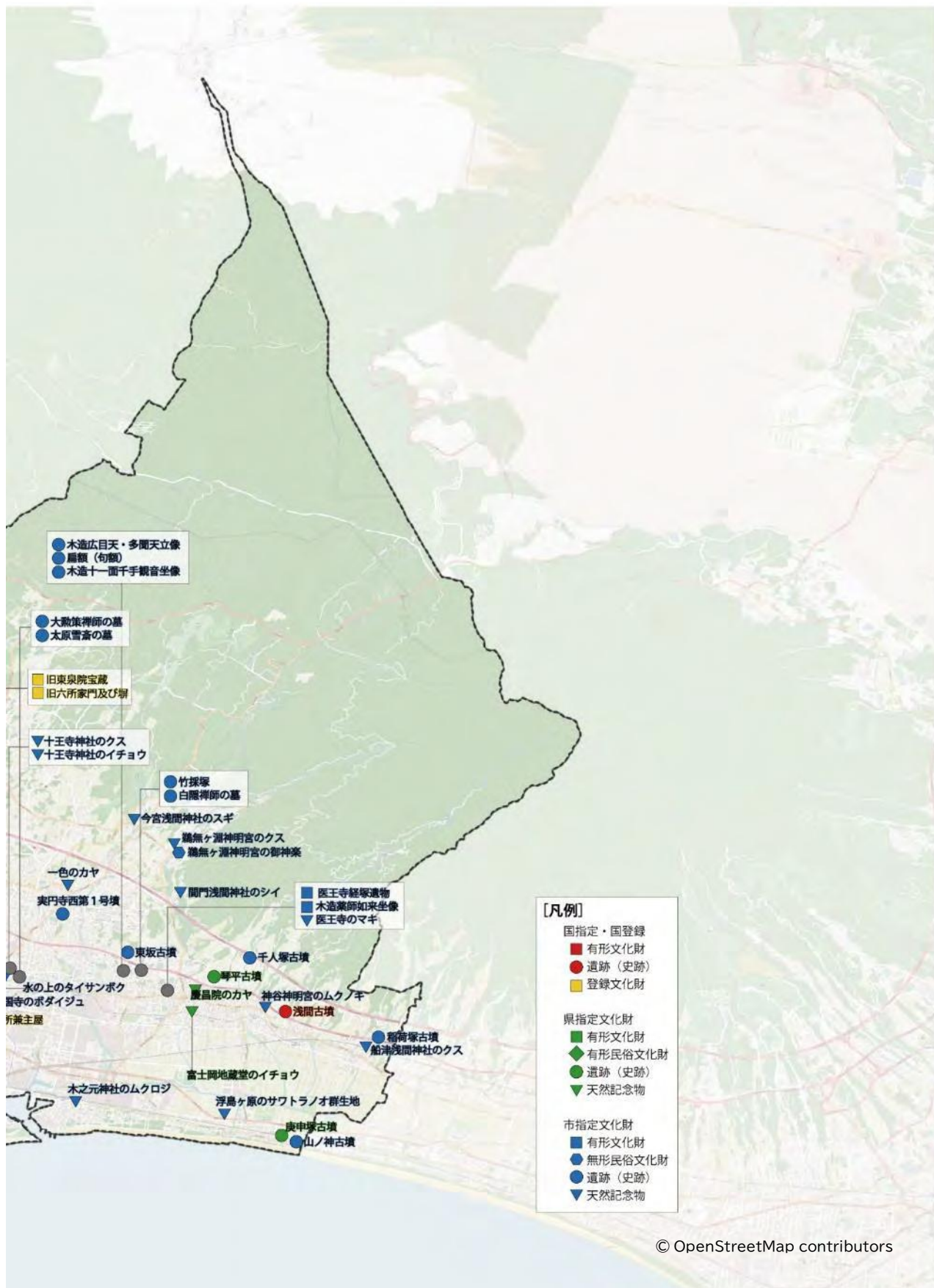
また、国の文化財保護法では文化財登録原簿に登録して保存と活用を図る登録文化財の制度があり、本市では7件の登録文化財(建造物)があります。

一方、無形文化財および文化的景観、伝統的建造物群保存地区、選定保存技術に指定あるいは、選定されているものはありません。

[富士市の指定および登録の文化財件数]

種別		国		県	市	計		
		指定	登録	指定	指定			
有形文化財	建造物	1	7	1	10	19		
	美術工芸品	彫刻	1	—	—	6	7	22
		書跡・典籍・古文書	1	—	—	7	8	
		工芸品	1	—	1	—	2	
		絵画	1	—	—	—	1	
		考古資料	—	—	1	3	4	
無形文化財	演劇、音楽、工芸技術、その他無形文化的所産	—	—	—	—	—		
民俗文化財	有形の民俗文化財	—	—	1	—	1		
	無形の民俗文化財	—	—	—	4	4		
記念物	遺跡(史跡)	2	—	4	10	16		
	名勝地(名勝・特別名勝)	1	—	—	—	1		
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	—	—	3	24	27		
文化的景観		—	—	—	—	—		
伝統的建造物群保存地区		—	—	—	—	—		
計	(指定)	8	—	11	64	83	90	
	(登録)		7	—	—	7		

※令和4(2022)年3月31日現在



[主要指定文化財]

・国指定

写真			
	種別	特別名勝・史跡	重要文化財（建造物）
	名称	富士山	古谿荘 9棟
	指定年月日	名勝：昭和 27(1952)年 11 月 12 日 史跡：平成 23(2011)年 2 月 7 日	平成 17(2005)年 12 月 27 日
	所有者	国ほか	(一財)野間文化財団
所在地	大淵字富士山ほか	岩淵	

写真			
	種別	重要文化財（彫刻）	史跡
	名称	木造地藏菩薩坐像	浅間古墳
	指定年月日	昭和 57(1982)年 6 月 5 日	昭和 32(1957)年 7 月 1 日
	所有者	瑞林寺	増川浅間神社
所在地	松岡	増川	

・県指定

写真			
	種別	建造物	史跡
	名称	旧稲垣家住宅 附棟札（文化元年）2枚	岩淵の一里塚
	指定年月日	平成 21(2009)年 3月 23日	昭和 61(1986)年 12月 5日
	所有者	富士市	静岡県
所在地	広見公園	岩淵	
写真			
	種別	天然記念物	有形民俗文化財
	名称	富知六所浅間神社の大樟	浮島沼周辺の農耕生産用具
	指定年月日	昭和 30(1955)年 4月 19日	平成 2 (1990)年 3月 20日
	所有者	富知六所浅間神社	富士市
所在地	浅間本町	富士市立博物館（富士山かぐや姫ミュージアム）	

・市指定

写真			
	種別	建造物	書跡・典籍・古文書
	名称	ディアナ号の錨	實相寺一切経
	指定年月日	平成元(1989)年 12 月 21 日	平成 21(2009)年 4 月 21 日
	所有者	富士市	實相寺
所在地	五貫島	岩本	
写真			
	種別	考古資料	史跡
	名称	医王寺経塚遺物	竹採塚
	指定年月日	昭和 59(1984)年 12 月 24 日	平成元(1989)年 12 月 21 日
	所有者	医王寺	富士市
所在地	比奈	比奈	
写真			
	種別	天然記念物	無形民俗文化財
	名称	厚原風穴（溶岩洞穴）	鵜無ヶ淵神明宮の御神楽
	指定年月日	昭和 54(1979)年 3 月 15 日	平成 21(2009)年 4 月 21 日
	所有者	富士市	鵜無ヶ淵神明宮御神楽保存会
所在地	厚原	鵜無ヶ淵	

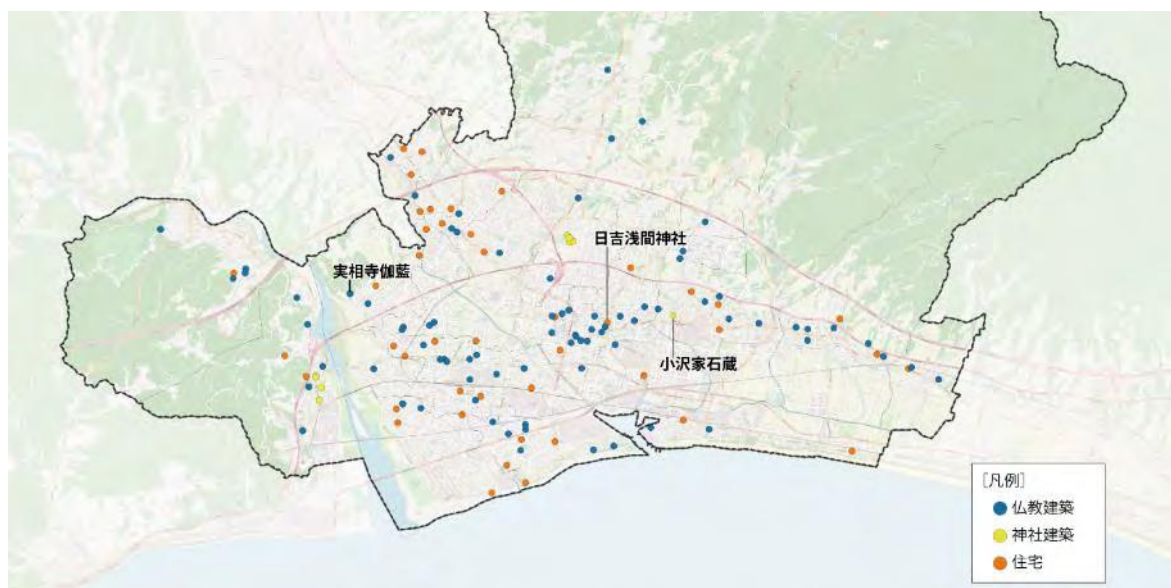
(2) 富士市の文化財の概要と特徴

本市においては、これまでの文化財調査において、指定・未指定、あるいは法令等の類型に当てはまらないものを含めて数多くの文化財が把握されています。これまでの文化財調査によって把握された本市の文化財の概要と特徴は次に示す通りです。

①有形文化財

●建造物

[建造物等の分布図]



・仏教建築

仏教建築としての指定文化財は瑞林寺伽藍^{ずいりんじがらん}1件（市指定）のみですが、市内には、これまでの調査により、約100の仏教寺院が確認されています。そのうちの43ヶ寺が日蓮宗（日蓮正宗含む）、26ヶ寺が曹洞宗であり、この2宗派が全体の約7割を占めています。江戸時代に創建されたとの寺伝を持つ寺院が多いものの、約4割の寺院では、創建時期を中世あるいはそれ以前までさかのぼるとする寺伝を有しています。



[實相寺伽藍]

こうした寺院にくわえて、地域住民によって管理されている小規模な堂に至るまで様々な仏教建築が分布していることが明らかとなっています。

・神社建築

本市には神社建築としての指定文化財は存在していませんが、市内には、これまでの調査により、190 を超える神社を確認することができます。大きく分けると、富士山に対する信仰にもとづく浅間神社、愛鷹山に対する信仰にもとづく愛鷹神社、応神天皇を祭神とする八幡宮、山神や水神といった集落の生業に関する神社等に分けることができます。



[日吉浅間神社]

本市の神社本殿の建築の様式としては、^{ながれづくり}流造が主流です。また、市内の神社に対する悉皆調査の中で、100 以上の神社に棟札が残されていることが明らかとなっており、神社建築の変遷をたどることが可能です。

・民家・商家等の住宅

建造物のうち、指定文化財や登録文化財となっている民家・商家等の住宅については、本市の歴史や文化の特徴をよく示しています。たとえば、^{きゅういながきげじゅうたく}旧稲垣家住宅（県指定）や^{いなばけ}稲葉家^{じゅうたく}住宅（市指定）は、畑作や林業、養蚕に従事した傾斜地に所在した住宅である一方で、^{とよ}樋^{だいかんうままつげじゅうたく}代官植松家住宅（市指定）や^{きゅうまつながけじゅうたく}旧松永家住宅（市指定）は稲作を中心とした平地の住宅となります。さらに、国の重要文化財である^{こけいそう}古谿荘や、^{ちょうほうかん}眺峰館（市指定）、^{きゅうじゅんてんどうたなかし}旧順天堂田中歯科医院^{しんりょうしよけんおもや}診療所兼主屋（国登録）といった、特徴的な意匠をもち、まちのシンボリック的存在となっていた住宅がみられます。また、本市の特徴として、こうした住宅の多くが、広見公園内ふるさと村歴史ゾーンの中に移築復原されており、多様な建造物を一つの場所で見学することで、本市の歴史や文化を体感することが可能となっています。

なお、平成 14(2002)年に実施された静岡県の調査では、市内の未指定の建造物として、江戸時代末から明治期にかけての住宅 11 件が報告されていますが、そのうち、すでに 2 件が取り壊されており、今後もその数が減少する可能性があります。



[吉原商店街の防災建築街区]

一方で、この調査には報告されていないものの、市内の各所に江戸時代や明治時代まで遡ることのできる蔵が現存していることが確認されています。

また、静岡県は街の防火を目的に、地上 3 階以上、高さ 11 メートル以上の耐火建築物が带状に建設された防火帯・防災建築街区の先進県とされています。なかでも、市内吉原の商店街では、昭和 35 (1960) 年から昭和 43 (1968) 年にかけて、25 棟の建造物から構成される防災建築街区が形成されており、県内でも良好に残存する事例として知られています。

・産業等に関する建造物

現在にいたる富士市の発展を支えたのは、江戸時代以降の暴れる水を制することにより開かれた豊かな平地を利用した稲作を中心とした農業、近代以降の豊富な水を利用した製紙業に代表される製造業であるといえます。これらの産業の基礎となる各種施設・設備が、特に明治時代以降の近代化とともに設けられました。こうした施設・設備は、老朽化などで更新されてしまう場合が多いものの、市内には以下のような近代以降の産業に係る建造物が残されており、産業都市としての富士市の発展の姿を示しています。



[王子エフテックス第一倉庫マシン建屋]

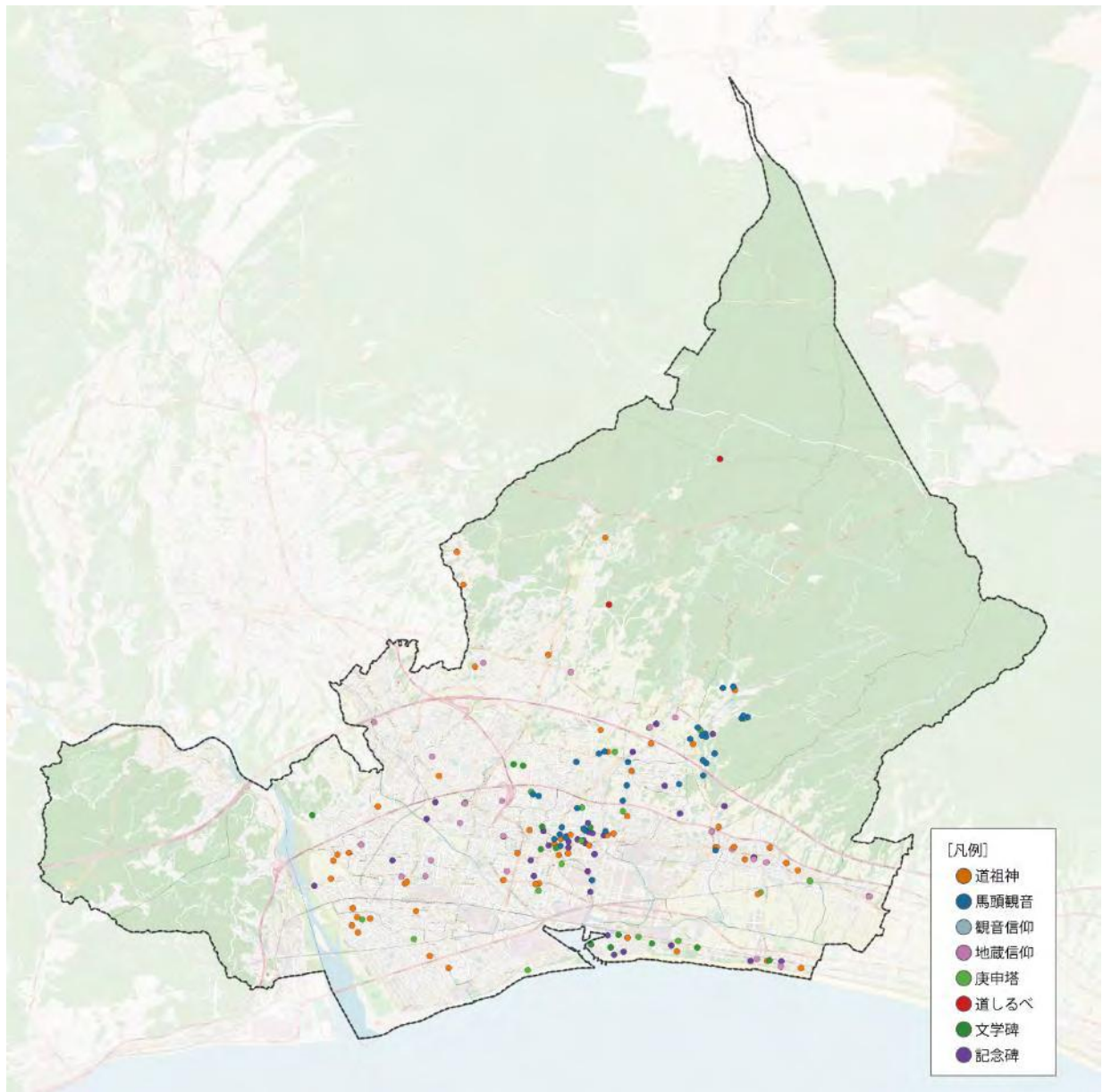
【これまでに確認された産業等に関する建造物】

農業に関するもの	昭和放水路（昭和 18(1943)年）、加島水門（明治 27(1894)年）
交通・運搬に関するもの	中之郷用水岩淵水門（明治 22(1899)）、富士川橋梁（大正 5(1916)年）、富士川橋（大正 13(1924)年）、田子の浦港（昭和 41(1966)年）、岳南電車および駅舎（全線開通は昭和 28(1953)年）
製紙業に関するもの	王子エフテックス株式会社第一製造所レンガ建屋（明治 23(1890)年）同マシン建屋（明治 30 年代）、同レンガ資材倉庫（明治 20～30 年代）、王子エフテックス株式会社東海工場旧事務所（大正 8(1919)年）、同レンガ建屋（大正年間）、同レンガ倉庫（大正年間）、岳南排水路（基線竣工は昭和 39(1964)年）
その他	岩科機械製作所西棟および東棟（大正 7(1918)年）、株式会社ふじかわコーポレーション昭和 24 年倉庫および昭和 39 年倉庫、増田衣料工業株式会社工場および住宅（昭和 8(1933)年）、同鉄筋コンクリート建物（昭和 17(1942)年）

●石造文化財

本市における石造文化財は、指定されているものは市指定として4件のみであり、建造物あるいは史跡に含まれています。一方、未指定の石造文化財は、これまでの調査により、約4,500点がリストアップされています。これらは、道祖神、馬頭観音、地藏、庚申など、本市の生活や生業に深く結びついたものと、交通や物流の状況を示す道しるべ、文学碑や記念碑といった先人の偉業を顕彰するものの3種類に大きく分けることが可能です。時代的に中世までさかのぼることのできるものはわずかしかなかったかもしれませんが、これらの石造文化財は、近世以降の本市の歴史や文化を知ることができる貴重な文化財といえます。以下では、それぞれの石造文化財の特徴を示します。

[主な石造文化財の分布図]



・^{どうそじん}道祖神の信仰

本市では、約 300 基の道祖神が確認されていますが、主として「伊豆系」と呼ばれる単体道祖神、「大宮系」と呼ばれる双体道祖神、そして文字で“道祖神”や“^{きと}佐倍乃^{かみ}加美”などと刻まれた文字道祖神の三つに分けられます。地域的な特徴として、伊豆に近い本市東部には単体道祖神が多く、また富士宮市に近い西部の^{たかおか}鷹岡地区では双体道祖神が多い傾向があります。一方、道祖神については富士川以西ではほとんど見られなくなります。



[双体道祖神 (天間)]

・馬頭観音の信仰

馬頭観音は道祖神よりも数が多く、本市では400基以上が確認されています。馬頭観音は昔から人々の重要な運搬手段であった馬の供養と深く結びついており、馬が数多く用いられていた富士山の山麓の大淵、鷹岡、吉永地区や愛鷹山の山麓の須津地区、富士川西岸では松野地区の山間地区に数多く建立され、当地の生業の特徴を示しています。



[馬頭観音（今宮）]

・観音信仰

江戸時代中期には、観音菩薩を本尊とする三十三ヶ寺を巡礼するものは大きな功德を得られるという観音巡礼信仰が広まり、西国三十三札所観音巡礼をはじめとして、坂東、秩父、源頼朝が源氏の再興を願って巡ったとされる伊豆横道などで札所（寺院）が整備され、各地を巡礼する庶民が多くなりました。しかしながら、当時は長期にわたる旅は困難であったため、三十三ヶ寺の本尊をそっくり写した霊場を近郊に造り、参拝できるような場所が整えられました。こうした例として宮島の万太郎塚や、岩淵の新豊院の三十三所観音が挙げられます。



[万太郎塚（宮島）]

・地藏信仰

地藏信仰は、釈迦入滅から56億7千万年後の弥勒菩薩の出現までの、仏のいない時代に人々を救ってくれるのが地藏菩薩であるという信仰で、平安時代初めから盛んになったといわれていますが、本市では、鎌倉時代に富士川周辺で地藏信仰が広まっていったとされます。その後、市域全体に広がり、360基あまりの地藏尊が確認されています。



[笠被り地藏（岩淵）]

・庚申信仰

暦における十干十二支の組み合わせで、60日に一度巡ってくる庚申の日には、中国の道教の教えと仏教的な習わしが結びついた形で、人々が夜集まり、朝まで寝ないで話をするという「庚申講」という信仰行事が江戸時代に流行しました。流行にあわせて、庚申が“かのえさる”と言われることにちなみ、猿を刻んだ石造物や、行事の本尊とされた青面金剛をかたどった庚申塔が全国で建立されており、本市でも約 130 基の庚申塔が確認されています。



[庚申塔 (木島)]

・道しるべ

本市には東西を走る東海道と、そこから派生する山梨や長野に至る街道が存在しており、旅人にとって道案内となる道しるべが 93 基確認されています。

その建立者や街道等によって区分すると、以下の 4 種類に分けることができます。

仁藤春耕の道しるべ

市内富士岡の住民、仁藤春耕の手により、明治 39(1905)年から明治 45(1912)年ごろにかけて、本市から御殿場市を結ぶ十里木街道にそって建てられた石造文化財で、富士市・裾野市・御殿場市にわたって 100 基以上現存しています。このうち、本市内には 37 基が確認されています。



[仁藤春耕の道しるべ]

室伏半蔵の道しるべ

市内久沢の室伏半蔵の手により、江戸時代末期に建てられた道しるべで、潤井川の北岸から久沢・入山瀬など本市の北西部にかけて、8 基が確認されています。日蓮宗の題目である「南無妙法蓮華経」の文字や日蓮宗の大黒天信仰と深いかわりのある「甲子神」の文字が大きく刻まれていることから室伏半蔵が日蓮宗に深く帰依していた様子がうかがえます。



[室伏半蔵の道しるべ]

富士山の道しるべ

富士山は、平安時代末に、富士市岩本の實相寺を開いた智印上人^{ちいんしょうにん}の弟子である末代上人^{まつだいしょうにん}によって登山道が開かれたとされ、以降、多くの参詣者を集めました。中でも江戸時代には庶民の参詣登山が盛んとなり、富士山への経路を示す道しるべが立てられました。富士市内では、東海道から分かれて富士山本宮浅間大社へと向かう起点となる松岡の水神社の境内や吉原から村山浅間神社へと向かう村山道の道中に道しるべが確認されています。



〔富士山の道しるべ（水神社）〕

身延道の道しるべ

身延道は静岡と山梨を結ぶ街道の一つで、古くは甲州往還^{こうしゅうおうかん}ともいわれ、江戸時代には日蓮宗の総本山身延山久遠寺^{みのぶさんくおんじ}への参詣道として盛んに使われました。現在は新道やゴルフ場、宅地の開発により、その面影はほとんど残されていませんが、身延山までの距離を示した題目道標^{だいもくどうびょう}などにより当時の様子がうかがえます。



〔身延道の道しるべ（光栄寺）〕

・文学碑

本市には東西を走る東海道と、そこから派生する山梨や長野に至る街道が存在していることから、多くの旅人が行き交う場所でした。その中には、松尾芭蕉^{まつおばしやう}をはじめとする著名な俳人も含まれており、市内からの雄大な富士を見て詠んだ歌が残されています。また、富士山の麓であるからこそ、多くの俳人が拠点を構え、後進の育成に励み、俳句の文化がこの地域に広まりました。その結果、師匠を慕う弟子たちが建立した句碑が多く残されており、和歌の碑等も加えると富士市内に47基の文学碑が確認されています。



〔松尾芭蕉文学碑〕

・記念碑

貴人の来訪、困難な工事の完成、地域に尽くした先人の功績などは、市内の各地域にとって、まさにそれぞれの地域が誇るべきアイデンティティとなっています。それらの事績を単に語り継ぐだけではなく、広く顕彰し、後世に伝えるために、地域の人々の手により、市内には戦前までに建立された約250基の記念碑が確認されています。中には、先人たちの功績だけではなく、災害の記憶を色あせないものにするために立てられたものもあり、人々の記憶の伝達装置の一つとしての役割を有しているともいえます。



〔角倉了以翁紀功碑〕